

川苔山山行記録

記：鳥切昇治

期 日：2020年11月11日(水) 天候：晴

山 域：奥多摩 川苔山(1363m)

メンバー：鳥切昇治(80歳)・鳥切須美子

4月以降、コロナ禍で山行を自粛していたら山に行く気持ちが希薄になり半年以上が過ぎた。秋も深まり北の方では雪の便りも聞かれるようになった。このままではいけないと重い腰を上げ、紅葉見物を兼ねて奥多摩の川苔山に登ることにした。アプローチを調べてみると電車では日帰りが難しいことが分かり車で行くことにした。

行動記録

自宅を早朝に出たので奥多摩の川乗橋に2時間かからずに着いた。

車の中で朝食を食べ、ストレッチをしてから出発する。気温が3度で寒い。川乗林道は舗装されていて川苔谷の右岸の急斜面に付けられている。落石があるので谷側を歩く。植林された杉林の中を結構な斜度で登って行く。山の上の方は日が射しているのに此方は薄暗いままだ。先が長いのでゆっくりしたペースで登る。川苔谷に架かる橋が出て来たので細倉橋かと思ったら竜王橋だった。左岸側をしばらく登って行くと水力発電小屋がある細倉橋に着いた。トイレは鍵がかけられてあり使えなかった。ここから林道を離れ山道に入る。川苔谷は狭く深くてゴルジュとなっている。

谷が浅くなってくると木橋を何度か渡り、谷に沿って遡行する。百尋ノ滝手前から急な崖を



川苔谷を遡行する

落葉で滑り易く注意して登る。木越しに日が射していて紅葉がきれい。

火打石谷を渡り、落葉が厚く積もった道を歩く。足毛岩分岐に着いた。右手の足毛岩方面はロー



細倉橋から山道に入る

登るようになる。滑落注意の立札が要所に立ててある。滑落事故が起きているようだ。百尋ノ滝への分岐に着いた。木越しに滝が見えるが良く見えない。滝見物は帰りにすることとし滑落が起きそうな斜面を登る。鎖、梯子があり、足元は

プが張ってあり通行止めがしてある。左手の道に入り桧林の中をトラバースして行く。横ヶ谷の沢筋を登るが落葉で道が見難く、赤のビニールテープを見落とさないように沢筋を詰める。男の登山者が一人下りて来た。今日会った初めての登山者だ。山頂は寒いと言って



広い道を川苔山に向う



足毛岩分岐に着いた

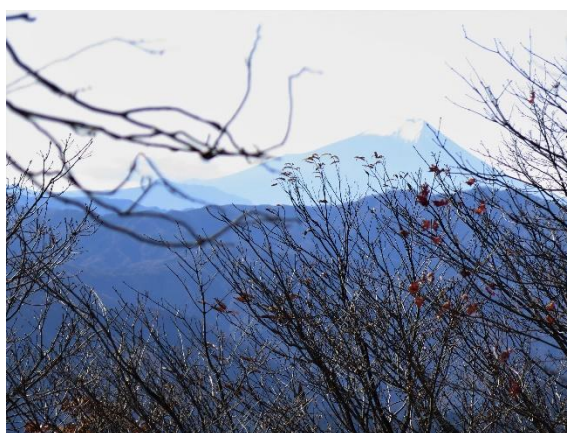
いた。

左手の桧林の尾根筋に出て、登り詰めると広い道に出た。鳩ノ巣駅からの道の合流点だ。標識に川苔山 0.2kmとあった。鳩ノ巣駅の方から二人の女性が登って来た。

立派な標柱がある川苔山山頂に着いた。北西



川苔山山頂



川苔山から富士山

側の眺望は良いが他は木の枝が邪魔して良く見えない。北西側にあるのが雲取山か？特徴が無く見分けがつかない。西側の木越しに富士山が見えた。日差しがあり風も無くて暖かく感じる。登山者二人がベンチで食事をしている。我々もベンチで腹ごしらえをする。

登って来た道を下山する。百尋ノ滝に近づいて、急斜面の崖の道は慎重に下る。百尋ノ滝分岐に着いた。滝を見に行く。百尋ノ滝は何段かになっているようで滝壺に行くと下の段の滝を見上げるようになる。ドドッと落ちるのではなく五月雨的に落ちているので落ち着いた雰囲気のある滝である。

分岐に戻り急斜面の崖を下って川苔谷に無事下り立つ。谷と景色を眺めながら細倉橋まで下り、



百尋ノ滝上部の林



百尋ノ滝



細倉橋の紅葉

川乗林道を川乗橋まで歩いた。

コースタイム

《往路》自宅 3:46—藤沢 IC4:10—海老名 JCT4:18—日の出 IC4:43—5:30 川乗橋

川乗橋 6:48—竜王橋 7:31—7:40 細倉橋 7:55—8:43 百尋ノ滝 8:53—9:42 足毛岩分岐 9:50—10:45 鳩ノ巣駅分岐—10:52 川苔山 11:26—足毛岩分岐 12:04—12:53 百尋ノ滝 13:02—13:50 細倉橋—14:29 川乗橋

《帰路》川乗橋 14:43—15:41 青梅 IC—海老名 IC16:22—17:23 自宅 （全走行キロ数:199km）

《参考》歩行距離:約14km

以上